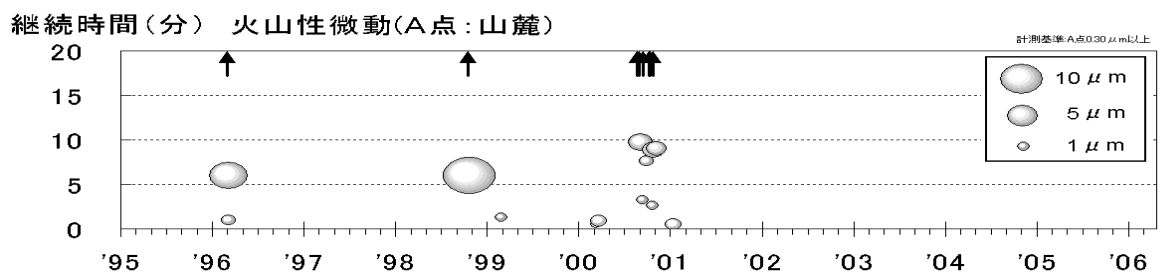
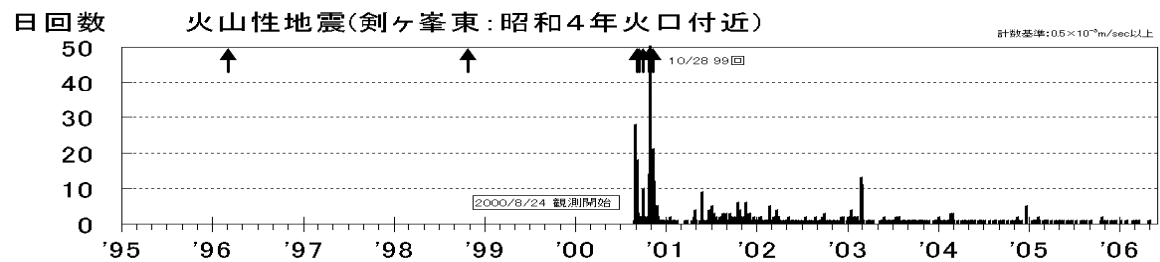
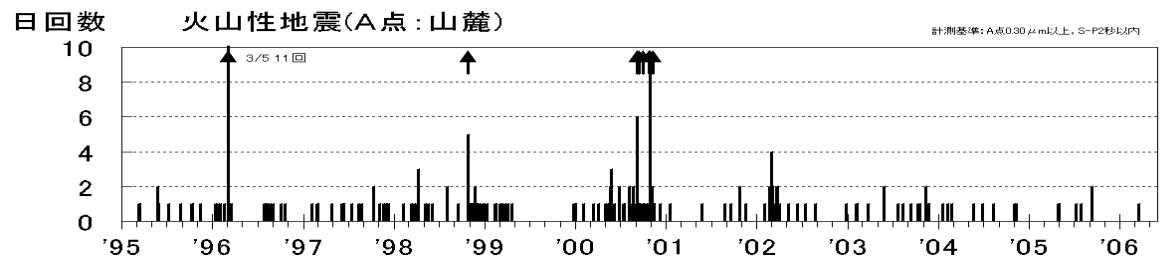
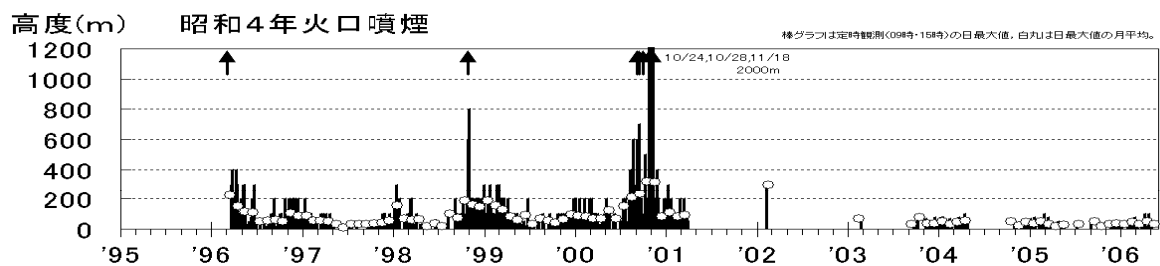
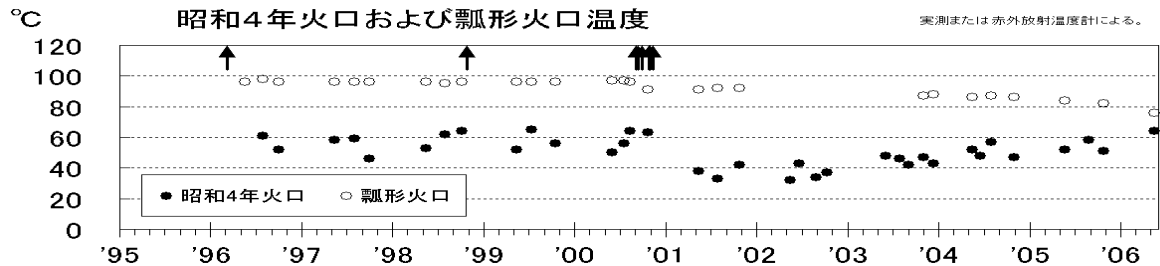


北海道駒ヶ岳

1 概況

火山活動は静穏に経過しています。わずかな山体膨張や、2003 年 9 月以降見られている昭和 4 年火口からの弱い噴気は引き続き観測されています。



最近の火山活動経過図 (1995 年 1 月 1 日～2006 年 5 月 31 日) ↑印は噴火

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています。(承認番号 平 17 総使、第 503 号)

2 噴煙の状況

2003 年 9 月以降、昭和 4 年火口からの弱い噴気がしばしば観測されています。

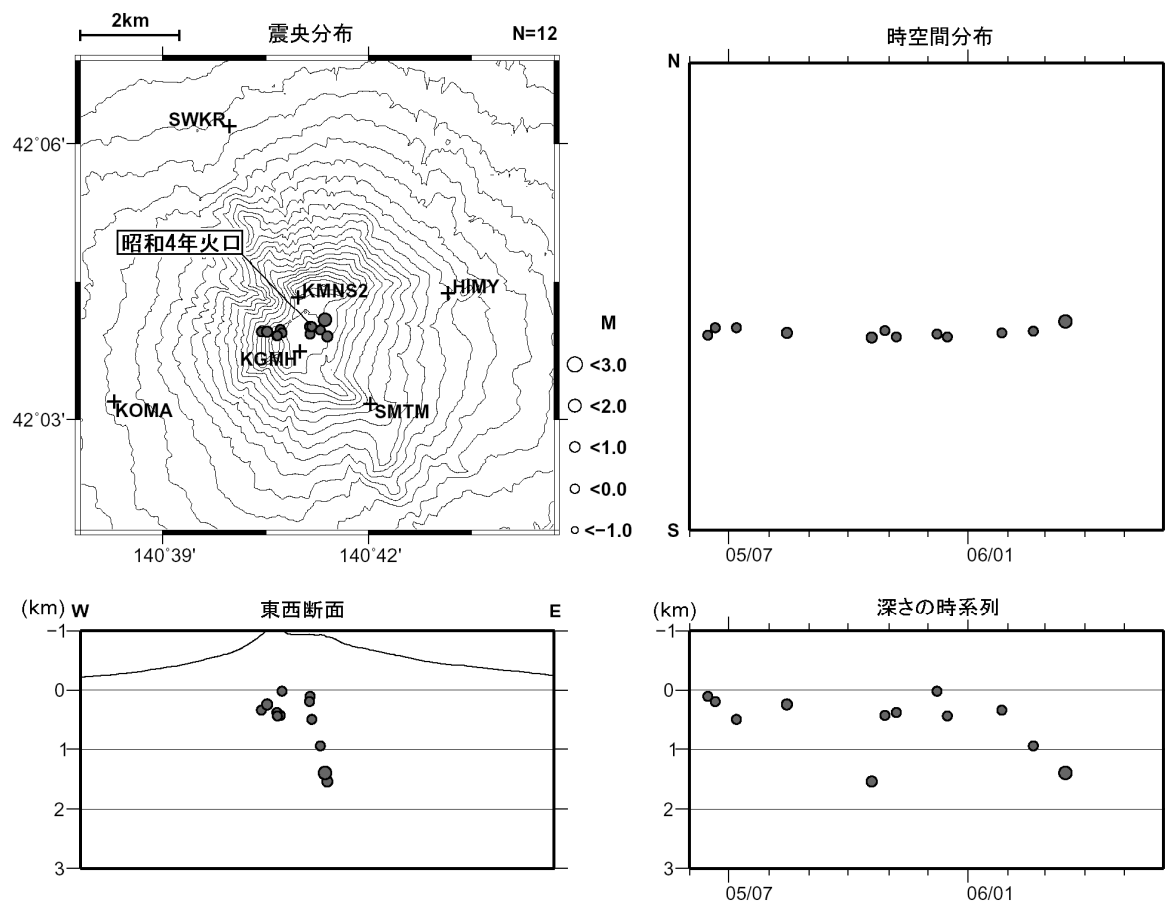
3 地震の発生状況

今期間、火山性地震は観測されませんでした。

火山性微動は 2001 年 1 月以降観測されていません。

地震・微動の月回数 (A 点：山麓の観測点 剣ヶ峯東：山頂付近の観測点)

| 2005～2006 年 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 4 月 | 5 月 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| A 点地震回数 | 0 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 剣ヶ峯東地震回数 | 3 | 3 | 3 | 1 | 4 | 3 | 2 | 3 | 2 | 3 | 2 | 0 |
| A 点微動回数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |



北海道駒ヶ岳の震源分布図 (丸印：震源 +印：地震観測点)

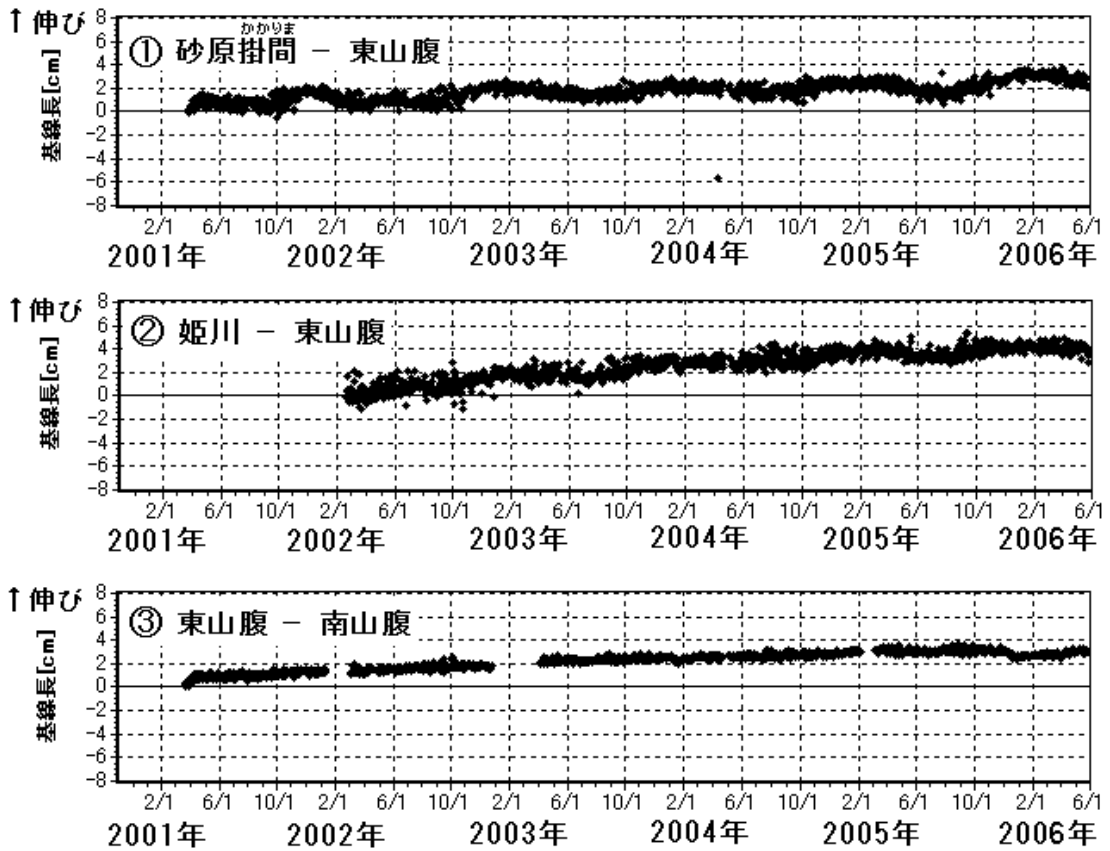
●印は前期間までの 11 ヶ月間 (2005 年 6 月～2006 年 4 月) に求まった震源を示しています。

震源は山頂火口原直下、深さが海面付近と海面下 1～2km に分布しています。

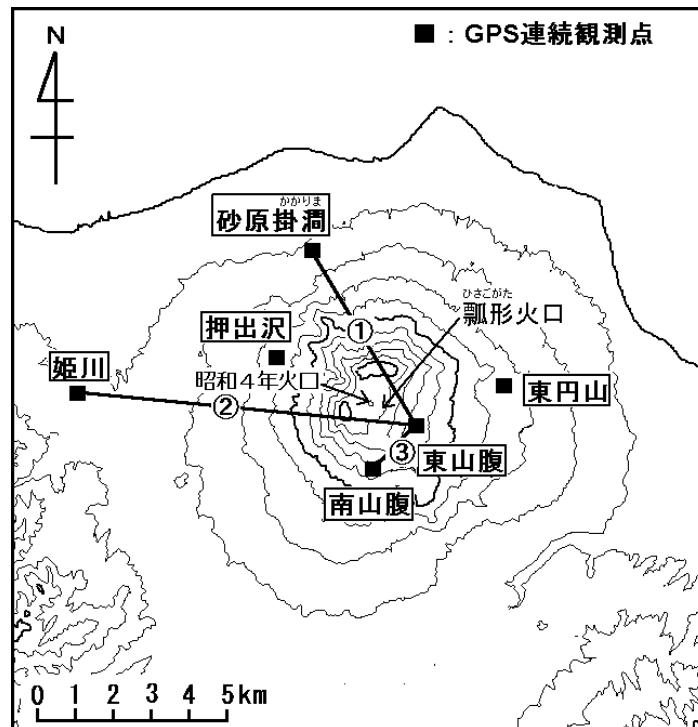
今期間 (2006 年 5 月) に求まった震源はありませんでした。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。



基線長変化 (2001 年 3 月 23 日～2006 年 5 月 31 日) 基線長変化グラフの空白部分は欠測



GPS 観測点配置図

5 調査観測の結果

5 月 15～19 日に実施した調査観測では、昭和 4 年火口の熱活動に大きな変化は見られませんでした。

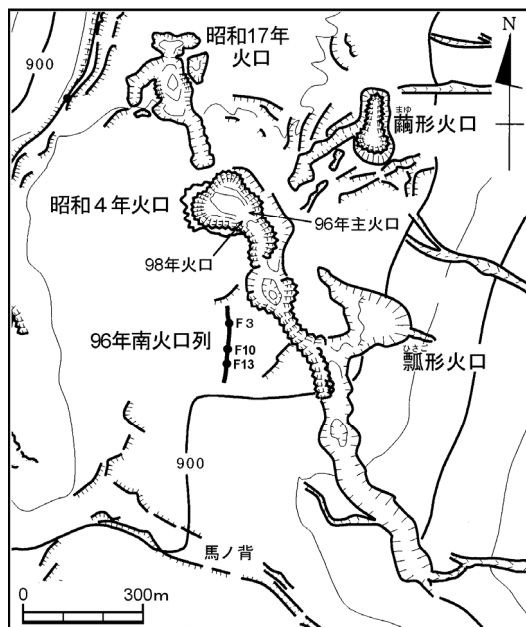
【昭和 4 年火口】

火口内の南側火口壁で弱い噴気活動が続いています。火口温度は 2000 年噴火以降、2001 年に一旦低下しましたが、その後緩やかな上昇傾向を示しています。赤外放射温度計*で測定(測定距離約 120 m)した火口温度の最高は約 64℃ (前回 2005 年 10 月 : 約 51℃) と、引き続きその傾向が続いています。

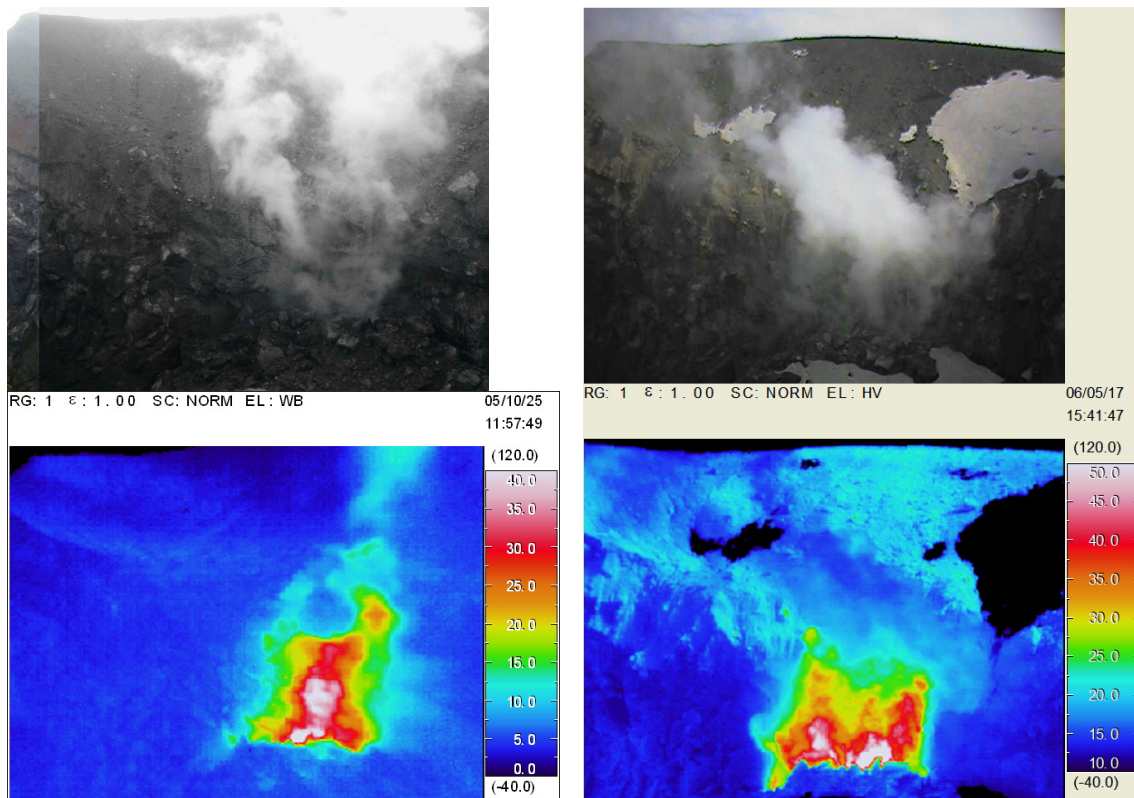
また、赤外熱映像装置*による観測では、南側火口壁の高温域は、前回 (2005 年 10 月) と比べてわずかに広がっているのが確認されました。

南側火口壁の噴気以外に高温域は認められませんでした。

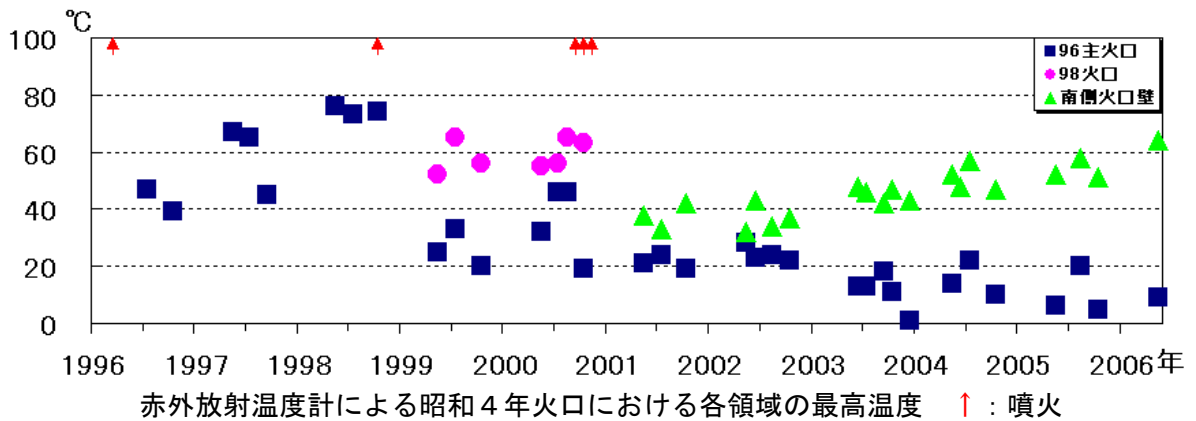
* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。



駒ヶ岳山頂火口周辺図



北西側火口縁から赤外熱映像装置により測定した昭和 4 年火口内の表面温度分布
(左図 : 2005 年 10 月 25 日、右図 : 2006 年 5 月 17 日撮影)



【96年南火口列】

火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。火口列南側の噴気温度は低い状態が継続しており、火口列全体で見ると、熱活動は低下した状態が続いていると考えられます。

【その他の火口】

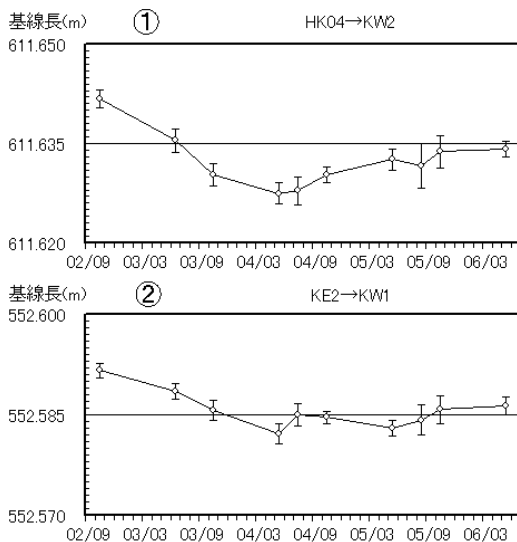
昭和4年火口周辺の瓢形(ひさごがた)火口、繭形(まゆがた)火口、明治火口でも弱い噴気活動が続いています。これらの火口の地熱域が拡大する傾向は見られません。

【GPS 繰り返し観測】

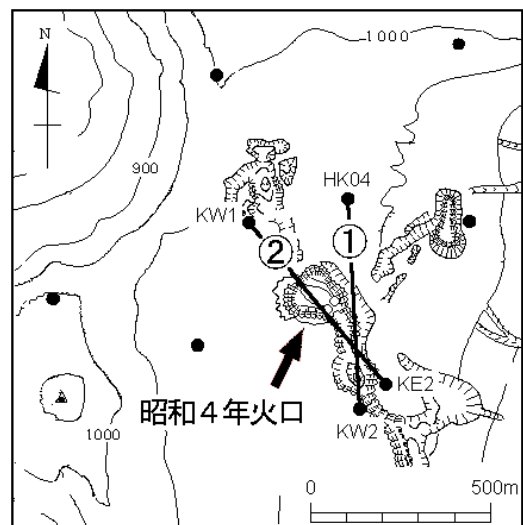
GPS 繰り返し観測では、昭和4年火口を囲む複数の基線で続いていた収縮傾向が2004年には反転し、わずかに膨張する傾向が認められました。今回の観測でも一部の基線を除き、その傾向が続いています。



96年南側火口列南側のF13噴気孔



昭和4年火口周辺の基線長変化



山頂GPS繰り返し観測点位置